

1 はじめに

これまで人吉球磨郡市は、田代修校長（あさぎり中学校）を中心に12校20名の保健体育科担当で研究を進めてきた。人吉球磨では、体育担当者が1名の小規模校が7校あり、複数の体育担当者がいる学校でも男女共習を行っている。次期学習指導要領にも示されている「男女共習」をキーワードに挙げ、効果的な男女共習の授業展開の工夫について研究を進めてきた。

2 研究組織

会長
田代 修校長
(あさぎり)

副会長
堤 俊介校長 (錦)
淵田康正校長 (水上)

理事長
穂多田直弘
(山江)

研究員

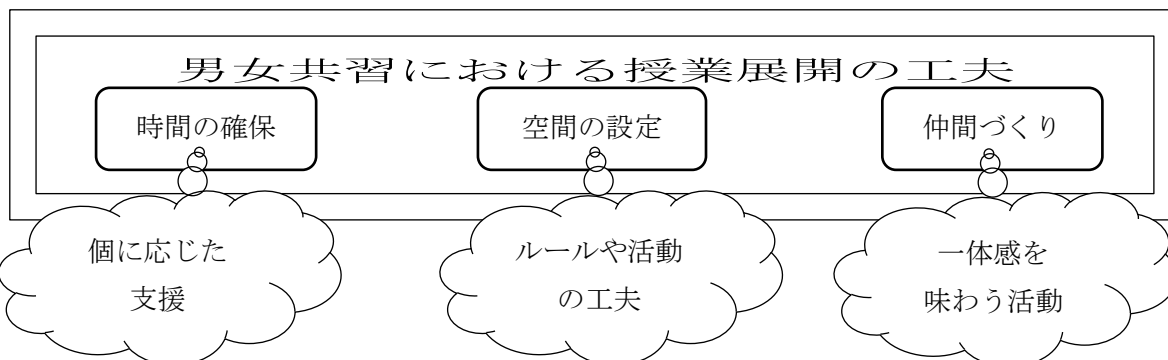
田中・澤村・熊 (人吉一)
久保田・中村・橋本 (人吉二)
岩崎・石松・井上 (あさぎり)
西川・吉田 (錦) 中武 (人吉三)
村山・荒嶽 (多良木) 吉村 (相良)
那須 (球磨) 武井 (水上)
一鬼 (五木) 久間 (湯前)

3 活動状況

	会議	期日	内容
1	第1回人吉球磨体育研究会 (中学部会)	6月6日 (火)	研究組織・研究テーマ 本年度の研究内容協議
2	第2回人吉球磨体育研究会 (小中合同)	11月17日 (金)	公開授業及び授業研究会 授業者：石松千奈 (あさぎり)
3	第3回人吉球磨体育研究会 (中学部会)	1月23日 (火)	夏期研修会復講 実践報告・研究のまとめ

4 研究テーマ

＜人吉球磨体育研究会（中学部会）研究テーマ＞
自ら運動の喜びや楽しさを求め、
生涯にわたり健やかな心と体をはぐくむ体育学習の在り方
～男女共習における授業展開の工夫～



5 研究の概要

(1) 男女共習における授業展開の領域別実践事例の作成

男女共習における課題の洗い出しを行い、その課題解決のための手立てを協議し、効果的な実践事例の報告を行った。体力差や体格差を考慮したグルーピングや役割の明確化、場の工夫など挙げられ、「時間の確保」・・・運動が苦手な生徒への満足感、「空間の設定」・・・運動が得意な生徒への満足感、「仲間づくり」・・・女子生徒への満足感による3つの視点に沿った授業研究会を進めていくことにした。

(2) 公開授業及び授業研究会 授業者 石松 千奈教諭（あさぎり中学校）

☆2年生によるサッカーの公開授業

視点1 個に応じた支援

- 時間の確保（めあての明確化・スキルウォームアップの工夫・班別練習の活性化）

視点2 ルールや活動の工夫

- 空間の設定（リトルティーチャーの活用・役割の明確化・練習スペースの確保）

視点3 一体感を味わう活動

- 仲間づくり（教え合い活動・個人の技能習得とチームの技能習得・他者評価）

めあての明確化により、学習意欲の向上が図られ、練習スペースをマーカ一等を使い、確保することで活発な班別練習がなされていた。また、サッカー部やサッカー経験者に役割を与え、対話的な学びを実践することができていた。ゲームにおいて、本時のめあて（コンビネーションプレーを使ってシュートを狙おう）を意識した活動が行われていた。

(3) 夏期研修内容復講 復講者 西川 誠教諭（錦中学校）

サッカーによる実技指導法の復講を行った。その際も男女共習における授業展開の工夫がなされる活動を実際に体験しながら協議を進めていった。また、錦中学校3年生において授業実践を事前に行い、その変容を映像で確認し、サッカーを苦手とする生徒の授業での様子を中心に検証した。

6 まとめ（成果と課題）

人吉球磨地区では、ほとんどの学校が継続した男女共習を行ってきた。そのため、特に球技の領域においては、さまざまな工夫や手立てが実践されてきた。その取組を今後も検証して、次期学習指導要領完全実施に備えたい。女子生徒へのアプローチは、熊本県全体としても課題がみられている。男女共習において、女子生徒が楽しいと感じる一体感を味わえる体育学習こそ体力の向上に寄与すると考える。

今年度の成果として、女子生徒や運動が苦手な生徒への手立てと平行して、運動が得意な生徒への手立てを行うことで一体感が味わえ、授業を受ける全員の満足感につながることがわかった。お互いに役割を分担し、個性がいきる風土づくりは体育学習において基盤になると考えられる。今後、さまざまな領域での授業実践を進めていきたい。